【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】平成18年7月20日(2006.7.20)

【公表番号】特表2005-532076(P2005-532076A)
【公表日】平成17年10月27日(2005.10.27)
【年通号数】公開・登録公報2005-042
【出願番号】特願2004-521085(P2004-521085)
【国際特許分類】
***Ａ０１Ｋ　63/04　(2006.01)***
***Ｃ０２Ｆ　1/00　(2006.01)***
***Ｃ０２Ｆ　3/08　(2006.01)***
***Ｂ０１Ｄ　35/02　(2006.01)***
【ＦＩ】
Ａ０１Ｋ　63/04　Ｚ
Ａ０１Ｋ　63/04　Ｆ
Ｃ０２Ｆ　1/00　Ｌ
Ｃ０２Ｆ　1/00　Ｘ
Ｃ０２Ｆ　3/08　Ａ
Ｂ０１Ｄ　35/02　Ｍ

【手続補正書】
【提出日】平成18年6月2日(2006.6.2)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
水槽などの水の分配装置であって、
可動式水ノズル（５０）に運動学的に接続されたモーター手段（７０）を収納する本体（３０）であって、このモーター手段が前記分配装置（２０）に浸入する水の運動エネルギーにより回転する羽根車（７０）を含む、本体と、
前記ノズル（５０）を回転させるように、前記羽根車（７０）を前記ノズル（５０）に運動学的に接続するように設計された歯車機構（５８、８０、９０）と、を有し、
前記ノズル（５０）は回転軸（Ｘ）を中心に回転するように前記本体（３０）に回転自在に取り付けられ、且つ前記歯車機構（５８，８０，９０）は前記ノズル（５０）を連続的に回転するものであり、
生物好気性ろ過器（１４０）が前記回転ノズル（５０）に取り付けられ、この生物ろ過器（１４０）は前記ノズル（５０）と共に回転することを特徴とする水の分配装置。
【請求項２】
請求項1記載の分配装置であって、この分配装置は前記好気性回転ろ過器（１４０）の上に位置付けられたカバー機素（２２０）を有し、このカバー機素は前記好気性回転ろ過器（１４０）の上部を少なくとも覆うものである。
【請求項３】
請求項2記載の分配装置において、前記カバー機素（２２０）は前記回転ろ過器（１４０）から所定の離れた距離に置かれ、これにより前記好気性回転ろ過器（１４０）と前記カバー機素（２２０）の間に空気チェンバー（２２８）が定められるものである。
【請求項４】

請求項３記載の分配装置において、前記回転ろ過器（１４０）が水に完全に浸るように前記分配装置（２０）を位置付けると、前記チェンバー（２２８）は前記ノズルにより生成される水の噴出によって放出された空気の一部を捕らえることができ、それにより前記回転ろ過器（１４０）の好気性菌再生を可能にする空気チェンバーを作成するものである。

【請求項５】

請求項４記載の分配装置において、前記カバー機素（２２０）は前記好気性回転ろ過器（１４０）の表面の少なくとも２０％を覆うものである。

【請求項６】

請求項４記載の分配装置であって、この分配装置は、前記好気性回転ろ過器（１４０）と前記カバー機素（２２０）の間の距離を調整する手段を有するものである。

【請求項７】

請求項１～６記載の何れかの分配装置において、前記好気性回転ろ過器（１４０）は円板形状を有し、前記カバー機素（２２０）は前記好気性回転ろ過器（１４０）の形に適合したカップ形状を有するものである。

【請求項８】

請求項７記載の分配装置において、前記カバー機素（２２０）は半円形を有する２つの側板（２２２，２２４）と、この２つの側板（２２２，２２４）の間に置かれた半円筒板とを有するものである。

【請求項９】

請求項８記載の分配装置であって、前記側板（２２２）の中央部近くに、前記ノズル（５０）を収納することができる湾曲凹部(２２２ａ)が存在するものである。

【請求項１０】

請求項９記載の分配装置であって、この分配装置は第１の円筒中空体（３２）を有し、前記カバー機素（２２０）の前記側板（２２４）は前記カバー機素（２２０）を前記分配装置（２０）に固定するために、前記第１の円筒中空体（３２）に取り付けられるように設計された半円筒スリーブ（２２４ｂ）を有するものである。

【請求項１１】

請求項１記載の分配装置において、前記歯車機構（５８、８０、９０）は前記羽根車（７０）によって動く少なくとも１つのピニオン（９６）を有し、このピニオンが前記ノズル（５０）に固定された歯付き中高（５８）に係合するものである。

【請求項１２】

請求項１１記載の分配装置において、前記歯車機構（５８、８０、９０）は前記羽根車（７０）によって動く前記少なくとも１つのピニオン（９６）と歯車（９４）とが取り付けられた回転軸（９２）を有するものである。

【請求項１３】

請求項１２記載の分配装置において、前記歯車機構（５８、８０、９０）は前記羽根車（７０）に固定された切欠き（８０）を有し、前記歯車（９４）と係合して前記歯車（７０）が回転する際、前記切欠き（８０）は前記歯車（９４）、前記回転軸（９２）、および前記少なくとも１つのピニオン（９６）を遅い速度で回転させ、このピニオンがその次に前記ノズル（５０）を回転させるものである。

【請求項１４】

請求項１１～１３記載の何れかの分配装置において、前記羽根車（７０）は水流方向の中心線に平行な軸を中心に回転するものである。

【請求項１５】

請求項１４記載の分配装置において、前記回転軸部（９２）、つまり前記歯車（９４）の軸および前記少なくとも１つのピニオン（９６）の軸は、前記羽根車（７０）の前記回転軸に対して垂直である。

【請求項１６】

請求項１５記載の分配装置において、前記歯付き中高は、前記水流方向に平行な回転軸

を有し、そのため前記回転ノズル（５０）の前記回転軸（Ｘ）は前記水流方向に平行である。
【請求項１７】
請求項１４記載の分配装置において、前記羽根車（７０）は軸方向に流れを有する羽根車である。
【請求項１８】
請求項１３～１７記載の何れかの分配装置において、前記羽根車（７０）に固定されている前記切欠き（８０）は１回に前記歯車（９４）の１つの歯部にのみ係合し、そのため前記羽根車（７０）が前記歯車（９４）の歯部の数と同じ数だけ回転する間、前記歯車（９４）は１回転するのみである。
【請求項１９】
請求項１１～１８記載の何れかの分配装置において、前記少なくとも１つのピニオン（９６）は２つあり、それぞれ前記回転軸部（９２）の両端に置かれるものである。
【請求項２０】
上記請求項の何れかの分配装置において、前記ノズル（５０）は前記ノズル（５０）の前記回転軸（Ｘ）に対して斜め方向に向けられた、流出水流用の出口（排出口）（５６）を有するものである。
【請求項２１】
請求項２０記載の分配装置において、前記ノズル（５０）は前記本体（３０）と回転自在に一体になった円筒形の部分（５２）と、２つの部分に分かれた半球形のエンドカップ（５４）とを有し、この２つの部分は前記流出水流用の出口（放水口）を形成するように第１の部分が第２の部分より下位に位置しているものである。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１８】
これらの目的は請求項１記載の装置によって達成される。